

第5章 実現に向けて



第5章 実現に向けて

ふくしま水道事業ビジョン2026の推進にあたっては、施策毎の目的と目標を明確にしたうえで、着実に取り組むこととします。

技術、社会構造、価値観などあらゆる面で変化が激しく、情報収集プロセスや緊密なコミュニケーションが欠かせない現代社会にあっては、事業実施後の評価検証では後追いとなってしまいます。

計画立案の前段が大変重要であることから、『よく見て、よく考え、骨太の方針・計画を立て、やり抜く』ことを行動原理とします。

- 「See」 まずは、よく見て現状を冷静に把握する。
- 「Think」 次に、見て得た情報が何を意味しているのかを考える。
- 「Plan」 現状や課題の原因は何かを分析し、導き出した解決策を具体的に計画立案する。
- 「Do」 最後に、計画に従って着実に実行し、定期的に進捗状況を確認しながらマネジメントを行い成果に繋げる。

加えて、変化が激しく先を読みにくい時代に「即時性」や「機動性」をもって対応するため、実行「Do」のステップにおいても情報収集を怠らず、軌道修正を繰り返すことで組織にとっての最適解を導き出します。

実現に向けては、組織全体における目的・目標の共有や職員相互の信頼関係も不可欠です。

各施策は、本計画策定時のメルクマール（道標）であることを認識し、実行段階においては不測の事態にも臨機応変に対応しながら、変革に挑み、その時代の社会構造に適応した水道事業を推進してまいります。

